

令和元年度 第二回兵庫県地域創生戦略会議議事概要

日時：2020年1月9日（木）10：00～12：00

場所：兵庫県公館第一会議室

<兵庫県地域創生戦略（2020～2024）（案）について>

（委員）

- ・企画委員会は四回、分野別検討会（若者定着・還流部会、魅力あるまちづくり部会、未来の担い手育成部会）は二回開催した。分野別検討会の意見を反映する形で企画委員会は運営されている。
- ・分野別検討会の「若者定着・還流部会」に関しては、地元企業での雇用の話や女性の働き方の選択肢の多様性の指摘をいただいている。「魅力あるまちづくり部会」では、テーマ性を持った地域区分のあり方。また、地域に面白い仕事があれば若い人は残るといった指摘をいただいた。「未来の担い手育成部会」では、一度外へ出た人が人脈やクリエイティビティを持ち帰ってくる。それをどう地域の中につなぎとめるか、定着させるかという議論をいただいた。
- ・企画委員会では、若者や女性の仕事、働き方、特にその地元企業との関係性に関して多く議論をいただいた。また、地域の個性を尊重した、テーマ性を持った地域区分のあり方やその中でどのような戦略を組み立てるのかという話があった。
- ・企画委員会の一回目には、基本理念や県の強みについて幅広く意見をいただいた。やはり人口が減少しても暮らしやすい地域をつくるべきだということ。個性ある地域が自立することがゴールではないかということ。さらに、地域の特性を考えた地域区分、これに応じて施策を対応する必要があるという指摘をいただいている。
- ・二回目には、地域区分の考え方や地元企業との関係性、そして人材の呼び込みについて議論いただいた。小学校、中学校、高等学校の段階別に、地元企業に関わる仕掛けのあり方。また、モデル的な施策展開や、地域外に出た人達がどのように繋がっていくか。そして、その地域の中でのネットワークの重要性について指摘をいただいている。
- ・三回目には、指標のあり方や人口の自然増のあり方、婚姻のあり方に関するご意見とともに、地域別プロジェクトで示された7つのゾーン毎に検討を進めた。具体的なアイデアをたくさんいただいたが、全体としては、ゾーンで考えてメリハリをつけた施策を展開すること。さらに、一つのゾーンだけでなく、他のゾーンと連携することの必要性についての話もあった。

- ・四回目は11月29日に開催し、戦略のたたき台をもとに、議論をいただいた。多様な価値感が受け入れられるような地域の環境、また、自分たちでもできるということや、人口が減ることで生まれた強みの重要性について話があった。
- ・若者に元気や希望があたえられるイメージをきちんと打ち出すべきという指摘をいただいた。女性の就業促進では、男性の働き方の意識が変わる必要があること。外国人材の受入促進では、多様なタイプ別に指標を設ける必要があるという話。さらに地域産業の振興においては、以前からある地域の企業や産業をどのように継続させていくかという視点の重要性も議論いただいた。
- ・また、この戦略の冊子を最終的に県民の皆さんにお伝えするときに、小学生とか子どもなど、これから兵庫県を担っていただく若い人材にどのように伝えていくのか、伝える方法についても議論があった。
- ・このような議論を通じた内容が、地域プロジェクトの中にも生き続けているのではないかと考えている。部局横断的に地域プロジェクトの実現を目指すことで、地域の中に雇用が生み出されて、それが人口増に結びついていくということではないか。
- ・企画委員会では、最初に県民の心に響く戦略になれば良いという話を申し上げたが、特に本日の議論を通じて、若い人や女性の心に響くようなものとしてまとめていただければと考えている。

(委員)

- ・企画委員会の議論の内容については、この地域創生戦略案の中に組み込まれている。皆様からのご意見を頂きたい。

(委員)

- ・地域の元気づくりを原点にしながら人口増をどう考えていくのかという発想を支持したい。
- ・名古屋工大に非常勤講師として行ったが、六年間のうち何ヶ月間か地域で研修しなさいという仕組みがあるそうだ。こういった活動に、学生や若者が参加できるのも一つの手だと思う。
- ・丹波や但馬、淡路によく行くが、多自然地域では、この頃少し元気がなくなっているという気がする。人口が減っている集落の元気づけをどうするのかということを考えてら良い。
- ・一例として、以前、豊岡市竹野町で、かつて北前船を所有していた住吉屋という建物を改修しようというプロジェクトがあった。竹野町に高齢者がお茶を飲む場所が一軒もないということで、そこに高齢者が集まれる場所をつくったら高齢者の方々が集まってきた。

- ・そういう意味では、コンビニなど地域の施設をつくるということが 36 ページ、37 ページあたりに書いているので、たくさんある施策の中の一つに位置付けると面白い。
- ・淡路では若者が頑張っている。蕎麦屋さんができ、イタリアンができ、イチゴの温室、ブルーベリーの温室ができて、移住して頑張っている。

(委員)

- ・重要伝統的建造物群保存地区の福住で学生と活動しているが、世界一周してきた若い夫婦がゲストハウスを去年開業した。その他にも地域おこし協力隊が別の所でゲストハウスを開業するなど、若い人が丹波篠山地域で交流を見出しながら、職として頑張っているというところを最近見えて、非常に元気があると思っている。古民家とか自然とか、食というものを活かしながら、そこで若者が活躍できるようなチャンスが増えていくと良いと感じている。

(委員)

- ・総人口でものを考えるというより、やはり中身で考えるべきではないか。単に人口が増えるだけで良いということではない。もちろん、そういう理解をされている方は少ないだろうが、「市と市を比べると、こっちは人口が増えて、こっちは減っている」と、それだけで社会的に評価されるのではなくて、やはりその中身だ。生産年齢人口が減っていることをどう考えるか。まず、認識を統一された方が良い。今回まさにそういうところに踏み込んだという感じはするので、それは非常に良いことだ。
- ・資料に合併市町では特に旧役場の市街地周辺が疲弊し、人口減少と書かれている部分がある。一定の問題意識があって書かれたのだろうけれども、平成の大合併はどうだったのか。この会議で議論する話ではないかもわからないが、平成に起こったこととして、反省なり、また良いところなり、まとめていただけたらと思う。
- ・合併市町では、特に小規模集落が 10 年間で倍増したことについてどう考えるか。小規模集落が増え続けるということは良くない。それをどうするのかを施策に織り込むべきではないか。
- ・15 ページの重点指標の④の企業立地件数について、兵庫県はものすごく頑張っていて全国的にもトップクラスであるとは思いますが、やはり見なければならぬのは雇用者数だ。どのように雇用に結びつくかという観点からいくと、雇用者数の指標もあれば良い。
- ・これから 5 年間で起こることを考えると、やはり 5 G だ。5 G をどう活かしていくか。いわゆるデジタル経済、デジタル農業、デジタル水産業など、あらゆる

る分野で画期的に活用される可能性がある。

- なぜ過疎地からどんどん人が出ていくかというのと、買い物する場所、病院、教育ももちろん学校もないからだ。そうなると、より過疎化が進んでいく。これから病院を建てるとか学校を建てるとか、あるいは工場を建てるということは無理かもしれないが、過疎地にあっても、テレワークで十分対応できる。病院がなくても、大病院から村の数少ないお医者さんところにデータがきて、かなり高度な診療もできる。教育にしても、パソコンがあればかなりのところできる。
- これから5Gの効果が本当に出るならば、モデル地区を選んで、戦略的に過疎地対策やテレワークを少し議論していただくとありがたい。

(委員)

- 国の地方創生は、人口問題に偏っている。戦略においても人口をどうするのかということばかりを中心に考えている。何とか人口増をはかり、地域を元気にしていく方策の第一歩として、いろいろな政策をしなければならぬが、片方では確実に人口が減っていくということが一つの自然な流れのなかで、人口が少なくなっても、安全にその地域が維持でき、生活が維持できるように計画的に考えていかなければならないと思っている。
- 合併した町が今、人口が減少し、少子化になり限界集落が増えている。また、旧町の役場がなくなったところが非常に衰退している。しかし、合併しなければもっと元気で人口が増えていたとか、地域が元気になっていたかというのと、決してそうではない。両方を比較することはできない。合併に対する批判には、こういったことへの言及がない。
- 合併によって、行政が効率化をはかり、今まで以上に広域的な対策などを行ってきた、よかったことはたくさんある。そういう面の評価が取り上げられない。マスコミでも、合併した後、非常に衰退したというようなマイナス面の評価が非常に多い。もっと正確に評価すべきである。
- 人口が減少したら組織的にもいろいろと変えていくなど、それに合った対応をしていかなければならないと思う。
- この戦略の中でも、地域防災や地域の防犯対策については触れられているが、人口が減ってくると、今まで以上に地域力や、地域の皆さんの絆、連携のなかで地域を維持していくというまちづくりが必要だ。
- 合併以降、地域づくり協議会を組織して、ある程度地域で課題を解決していこうと取り組んできた。十余年経って、新たな地域づくり協議会へ向けて取り組んでいる。こういう動きは、各地域で当然出ている。そのなかで一番大事なものは、安全安心だ。その基盤がないと、そこに住み続けることはできないと思う。

- ・防災や地域治安についても、例えば地域の防犯協会や交通対策協会など、地域の皆さんが警察と一緒に取組んでいるが、行政組織として見ていると、人口が減っているところから多いところに集約をしていくという流れがあり、今回の警察の再編もその流れで行われている。今後、確かに効率化をはからなければならないが、町や県の行政職員の合理化、定員削減が行われた一方、警察組織はほとんど定員も変わらない。全体の地域の治安を守り、安全な基盤をつくる核になるべき組織だと思うので、広域化をはかり、指令部門の一つにしても、実際に出動する現場の職員は、地域にしっかりと配置する必要がある。そこに、先ほどお話のあった5Gなどを活用することによって、全体の防犯力や防災力、治安力を上げていく。そういう面にも取り組んでいく時代ではないかと思っている。

(委員)

- ・兵庫県をイメージしたときの強みは、一般的には国際色が豊かであるとか、地域内に多様な文化が認められるところだというイメージが定着しているところだと思う。実際にいろんな指標を見ても神奈川や大阪ほどではなくても、兵庫県は全国的に先進的な自治体に位置付けられている。特に、阪神・淡路大震災以後に積み重ねてきた色んな対策もある。実際に多文化共生は進んでいると思うが、この戦略ではその強みがあまり見えてこない。もっとアピールできるのではないか。
- ・この戦略案だとおそらく、外国ルーツや外国籍の県民は「我々のことはあまり念頭に置いてもらってないんだな」と受け止めるのではないか。外国人材のことをいろいろと書いているが、出てくる文言が、「留学生」、「実習生」、「観光ツーリズム」になっている。実際に住んでいる、あるいは移住を考えている方々のことをもっと念頭に置いて、今後も兵庫県は多様性を認めていくのだというメッセージが伝わる工夫が必要だと思う。例えば社会増対策の目標に、「多様性を認め合う兵庫県」というような言葉が入る方が良いのではないか。
- ・外国人への対策は、教育、医療、観光の多言語化という非常に重要なポイントを押さえていただいている。それに加え、居心地が良い、自分の名前を堂々とと言える、普段着ている姿で出歩ける、普段している慣習をどこでも普通に守れる、差別を受けたりしないということが、多様な文化背景を持った人が住みやすい地域だということだと思う。そうすれば労働力になりうる人も集まりやすくなると思うので、そのメッセージが入る必要があると思う。
- ・何がこれからの時代に必要かということと発想だと思う。やはりマジョリティーの日本人の男性と女性の視点は違う。外国ルーツを持っている人の視点も違う。障害者やLGBTの視点も違う。そうした発想があればそれに響くニーズがある

はずだ。今の日本の若い人はどんどんグローバル化を自分の中に取り入れている。均質的な価値観に縛られたところだと生きづらい、住みづらいと感じるかもしれない。こういった世代の変化もあるので、戦略では、多様性を認め合うことをアピールすることが重要ではないかと思う。

(委員)

- ・戦略で具体的な KPI とか目標設定が出てきたのはすごくよかった。
- ・目標に対して、毎年の進捗はどうなっているのかを見ながら、振り返ってどういうギャップがあったのかを見ていただければと思う。
- ・待機児童の数を 2024 年までにゼロにすると書いているが、もっと早い段階でゼロにしていいただければと思う。
- ・子どもを安心して預けられるところがあるということは、子育てをしながらもそれぞれの役割で活躍するための環境づくりにもなると思う。さらに、子供を預ける当人のみならず、周りで関わる方々にとっても、ここは安心して子どもが預けられるようなところであると認識してもらえるとよりスムーズであると思う。
- ・外資系製薬企業の会社なので、外国の方の雇用も少なくないが、その方やご家族の方が頼れる、コンシェルジュのようなサービスをワンストップで展開する窓口があれば大変助かるとよく聞く。窓口を一つにすることによって横の連携も出てくると思うので、そういうサービスが徹底できるような、環境づくりを考えていただきたい。
- ・女性の活躍ということで評価もいただいているが、女性が働きやすい環境ということで、在宅勤務や時短等の制度があり、これを活用する社内文化も進んできている会社の一つではあると思っている。在宅勤務については、例えば京都とか奈良でも勤務しやすい環境になっている。また、在宅勤務制度を使っている男性も多い。在宅勤務等のフレキシブルな勤務体制を促進することによって、女性のみならず男性も働きやすい環境にもなっていくので、ぜひ、地域と連携して進めていければと思う。
- ・レセプトやカルテのデータの蓄積を通して、どのようにより具体的な医療を受けたら良いのか。例えば、運動を働きかける、食事に対してはどのように考えれば良いのかというところをビッグデータを活用しながら推薦するような仕組みなどを、企業として今考えている段階なので、連携できる点がないかを考えていきたい。
- ・兵庫県としてのブランド力ということで言えば、どこを強く推進していきたいのか。どの地域でどのようなことを推進したいのかということも、より具体化することによって、ブランドづくりを強めていただければと思う。

(委員)

- ・在宅勤務、リモートワークについては5Gも含めて、先端技術を使った新しい社会の仕組みをとという話もあった。
- ・ビッグデータを使って科学的にいろんな仕組みをつくっていくと同時に、常にメッセージを送り続けることも必要だ。これはもしかすると、行政が丁寧に県民の皆さんと取り組んでいくということなのかもしれない。

(委員)

- ・戦略案は、地域のイメージ等も非常に明確にされた感じがして、よくまとめていただいたと思う。
- ・保育の問題だが、待機児童があるということは、若者からすれば、将来子どもができたときに預けられるかどうかわからないという状況を意味する。それだけでも将来に対する不安がある。そのなかで、結婚し、子育てに踏み切っていけるかという、「保育所が当たるかもしれない」では駄目で「絶対預けることができる」という状態でないと安心して進んでいけないということになる。待機児童があるということは、隠れ待機児童はもっとある。多くの方が現状を見て諦めた結果が今の待機児童数であるので、おそらく待機児童を解消していくと、さらに需要が増えていく。今後も保育の受け皿を増やしていかなければならない地域が、特に人口集中地域にあると思う。
- ・地域によってまだまだ保育所が足りないという状況を解消する道筋がないと、若者たちが結婚、そして子育てへの展望を描けないという結果になるのではないかと思う。
- ・子育て支援について各地域を回り現状を聞いているが、地域内で差が出ている。兵庫県全体としての過疎の問題だけでなく、各地域で人口が減少しているところと、そうでないところがどう共生していくか。それぞれの地域資源を有効に活かすプランを各地域が持つためのモデルが県として必要だと思う。それは、日本全体にとってのモデルにもなる。その意味では、戦略案の中で各地域を色分けしてプロジェクトイメージとして考えているところが評価できる。世界の観光地イメージを地域プロジェクト・モデルのイメージとして取り入れるなど、非常に意欲的なつくりになっていると思う。
- ・観光の面から景観を考えると、戦略案には新舞子海岸の大変美しい景観が掲載されているが、海の方だけを見ると綺麗だが、海岸を見るとこんなに美しくなく、私の子ども時代にあった景観は失われている。例えば、看板とか、堤防が増えていたり、不細工な手すりがある。そのような部分も含む、地域全体を含めたきちんとしたデザインがなされていない。他のページで、コモのイメージ

とかサンセバスチャンのイメージとか、美しい世界の観光地のイメージを使っているが、明らかに見劣りする。その地域を面でとらえて美しい景観をつくっていくには日本はまだ遅れていると思う。

- 世界各地で美しい景観を誇っているところは、100年前の景観を保存しながら最新の機能を備えている。それらを両立させていかなければならないが、日本の地域はどちらも不十分という感じがまだまだある。面でとらえた地域の景観創造に県としても取り組み、美しい地域をいくつも県が抱えていくとインバウンドが増えていくということにもなると思う。そのための一つのアイデアとして、モデル地域を取り上げ、余計なものを取り去ったイメージ写真を作成し、こんな景観が創造できれば良いという目標をビジュアル化すると良いのではないか。高度成長下での開発で景観を壊してしまった時代を私たちは過ごしてきた。開発の側面と、不要なものを取り去って美しい景観を実現していく整理の側面、今後はその両方に取り組む必要があると思う。神戸市では須磨の水族館の改築とともに、地域一帯を開発するという計画があつてかなり物議を醸しているが、地域全体として美しい形になるのなら、一つのモデルケースにもなると思つている。兵庫県全体でより良い景観の実現をしていただきたいと思う。

(委員)

- 兵庫県はなかなかインバウンドが伸びてないが、逆に考えれば、非常に伸びしろがあるのではないか。今年はオリンピックイヤー、来年はワールドマスターズゲームでたくさんの外国人の方が来るが、東京で聞くと、非常に周知が遅れているというか、認識されてないというような状況だ。万博もあるが、特に観光はここ一、二年、集中的に取り組んでいけば、これからのビッグイベントを取り込めるのではないか。
- 5Gもそうだが、新しい技術を取り込んだベンチャーの企業もある。いろんなベンチャー企業等も巻き込んで、観光というものを従来の視点を超えて進めていただきたらと思う。
- 県として、ワークライフバランスの充実を企業に推進しているが、兵庫の企業は非常に女性にとって働きやすい、子育てだけではなく女性としてのキャリア形成もしやすいというところまで進めていければ、学生や女性の方が企業を選ぶ時に、兵庫の企業がいいと思つていただけるイメージを打ち出せる。

(委員)

- 戦略案で、地域毎に考えていこうとしていることは非常に大事なことだと思う。今回、新たに地域プロジェクト・モデルが取り上げられたが、分かりやす

くするために、その背景となる地域の課題を挙げる書き方にしたほうが良いのではないか。こうした課題を地域独自の課題として捉え、対策を進めることが重要であると思う。

- 兵庫は日本の縮図と言われるくらい広く、県全体としての万遍ない対策は国の対策と同様に地域には響きにくい。住んでいるエリアへの関心は強い。明石では人が増えているが、保育所が足りなくなったという問題が強く出ており、若い人にとって大きな関心事になっている。県として、五国単位での大きな課題をまとめて欲しい。そのためには、ポイントを書いて、それぞれのエリアがどう考えているのかというものがあつた方が良い。
- キャッチコピーの「私が輝くふるさと兵庫」はものすごく良いが、中身が県民には伝わりにくい。戦略全体の構図をA3一枚ぐらいのポンチ絵にまとめ、全体をわかりやすくする工夫をして欲しい。
- 今、働き方改革を推進しているが、ギャロップ社の調べでは日本は、ワークエンゲージメントが、139カ国中132位になっている。これは、仕事に対するやる気というか熱意、集中力、活力が非常に低いことを示している。また、OECD加盟国の中でも日本の生産性は下位にある。兵庫県も、働く人たちのエンゲージメントが高くないと、本当の意味で全体が良くなる。兵庫県で働く人たちがいきいきしているのか、働きがい、やりがいを持っているのか、調べる必要があるのではないか。

(委員)

- 重点目標の中で、将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合について、小学生に比べて中学生は15ポイントほど低い。このようになってしまうのは、少し情けないなと感じている。子どもに対しては、家庭や地域など、いろんな接し方によって成長が変わってくる。何より学校教育が大事だろうと思う。
- OECDが15歳の各国の学習到達度調査の結果を出したが、日本の子どもたちの読解力はすごく低下しているようだ。教育をめぐって、いろんな取組をしてくれないと遅れていくと思う。
- 各国に比べて日本の高等教育への投資が割と少ない。5Gなど色々あるが、ICTを活かした教育への投資も、諸外国で遅れているところもあるので、教育環境を充実させていかないといけないだろう。
- 新聞を読んでいる子どもと読んでいない子どもでは、新聞を読んでいる子どもの方が読解力は高いというデータがある。
- 戦略案に「次代を担う人材を育成する教育力の強化」の項目があるが、教育力の強化というならば、教える側の先生たちの多忙化の改善、解消も図らなければならぬのではないか。資質向上なども必要だが、疲弊した教員による授業

は深みのある教育にならないと思う。しっかりとした教育が兵庫に根付けば、住む、住んでみようかという親も出て来るのではないか。

(委員)

- ・教育は大変重要なキーワードとキーポイントだろう。

(委員)

- ・重点目標の2の「地域資源を活かした交流人口の拡大」の中に、「医療とスポーツなどを活かした新しいツーリズムの開発推進」の項目がある。医療とスポーツに共通するのは、心身ともに健康で長生きできるライフスタイルを送りたいという人たちのニーズだと思うので、それに応えるツーリズムを開発することが必要だと思う。
- ・兵庫の場合は、サイクリングやウォーキング、あるいはゴルフツーリズムも実施しているが、こういった新しいツーリズムの開発は、非常に可能性のあるところだと思う。医療についても人間ドックのツーリズムなどは、大変期待している。
- ・体験ツーリズムを地域活性につなげるには時間がかかる。それなりの人材を養成することが必要だと思うので、育成のための仕組みを考えていただきたい。
- ・27 ページの「都市機能の充実・強化」の中で、パウダールームやおむつ替えスペースがあるレストスペースの設置促進がある。当初では、1階に視聴者スペースがあり、毎週金曜日にはジャズのコンサートをやっていて、シニア世代を中心に来館いただいていた。しかし、平日が少し寂しいという声があり、「1階におむつ替えと授乳スペース、人工芝を敷いた、読み書きしたり、絵本を読んだりするスペースをつくらないか」というお話がママさん職員の何人かから上がったためやってみようかと、この11月に開設した。
- ・若い子育て世代に、どれくらい訴求するのかわからなかったが、実際やってみると、この2ヶ月間で前年比より20%増で、延べ700人の方にご来館いただいた。分析すると、半数以上は30代の女性で、これまで全く来ていただけなかった方も新たに足を運んでいただいた。地域の皆さんにとっても若い子育て世代の方にとっても、職場としてダイバーシティを考えているということは効果を発揮している。

(委員)

- ・兵庫県内でも大手企業がたくさんあるが、中小企業零細企業が圧倒的に多い。中小企業が元気にならないことには地域経済も活性化は難しいと思う。国の「まち・ひと・しごと創生戦略」の基本目標Ⅰ「稼ぐ地域をつくるとともに、

安心して働けるようにする」の主な施策の方向性の中に、「地域金融機関等の連携による経営改善、成長資金の確保等」という表現もある。例えば、地域金融機関と地方公共団体が連携して、そこに地元の中小企業等が加わって、地域全体で盛り上げていく、活性化をはかるという視点も入れたらどうか。

- もう一点だが、戦略目標の地域の元気づくりの重点目標2では、「観光客受入基盤の整備」の主な施策に「空き家などの有効活用」がある。江戸時代の初めに尼崎城ができたときに、近隣の寺を1ヶ所に集めてつくった寺町というゾーンがある。近年非常に空き家が目立ち、全体では50軒ほどになっている。町全体も非常に沈滞化して人口も非常に少なくなっているため、何とか盛り上げようという寺町プロジェクトを進めているが、そのなかで、空き家を活用しようとしても、まず所有者がなかなか見つからない。固定資産税の納税状況から調べれば良いのだろうが、個人情報との兼ね合いもあるため調べにくく、非常にネックになっている。仮に所有者の方が見つかったとしても、貸していただけるかどうかは、また別の問題だ。了解を取れても、古い建物が多いから、耐震の検査や耐震工事を行わなければならないため、非常に高額な費用になってしまい、再利用が難しいというケースもある。空き家対策については、各地方公共団体で補助金等の制度をつくっていただいているが、クリアする要件が厳しいため、もう少し考えていただければと感じた。

(委員)

- 商工会地域は、人口規模では、兵庫県の人口の5分の1、一方面積では4分の3を占めている。圧倒的に小規模事業者が多く、9割近い割合を占めている。そのうちの半数近くが従業員がいない、いわゆる一人親方の事業者である。2050年までに大きく人口が減少する地域がほぼ商工会地域とオーバーラップしており、まさに商工会地域は地域創生の最前線ではないかと感じている。
- 商工会では、地域の持続的発展ということを大きな目標にしているが、その中で事業承継支援は最大の項目である。一般に事業承継というと、高齢化によって後を継ぐ人がいないというイメージが圧倒的で、確かにその部分が非常に多い。一方で、事業をやる気が十分な40代や50代の事業主が、地域の人口が少なくなり地域が疲弊していくことによって、市場が縮小し、結果的に事業をやめざるをえないというケースが見られる。戦略案では、事業承継、地域の持続的発展のための事業承継支援とあるが、後継者の確保だけではなく、やる気のある事業者が、今ある仕事だけで生業を立てられなくなった場合に、もう一つ仕事をプラスアルファすることで、生業を立てられて、地域にいろんな形で貢献できるというケースが多々あると思う。やる気のある事業者の多面的な起業といった面にも光を当てていただければと思う。

(委員)

- ・大規模災害の備えという点で、企業に対して、いわゆるBCPの策定を促していくことが必要ではないか。特に、中小企業や零細企業はなかなか独自で策定するのが難しい。このような企業に対して、どう支援をしていくのかが必要ではないか。
- ・雇用確保や引継ぎをどうするのか、地域への貢献をどうしていくのか、避難所を提供してもらえるのかといったことも含め、トータル的な計画の策定を確保できるようになれば、非常に充実したものになるのではないかと思う。
- ・サプライチェーンのどこか一角が被災すると、たちまち全体の事業が中断してしまう。兵庫県を見ると、例えば北近畿自動車道など道路網が整ってきているので、瀬戸内近辺だけではなく、危険予知をしてインフラの整った便利なところに企業や工場を誘致できるような施策ができないのかと思う。
- ・結果としてそれが、地域の人口偏在化の対策にも繋がっていくのではないか。

(委員)

- ・5ページの合併市町における人口の推移の表は必要なのか。合併市町であれば、合併してない市町を抜かなければおかしい。
- ・空き家などがこれから非常に増えてくる。特に地方の山間部では、空き家だけでなく、農地の問題も山林の問題もある。土地の所有者がわからない。また、所有権が複雑化してしまうなど、様々な面で大きな問題が出てきている。土地管理の問題は、これから大きな行政の課題になるので、本当に考えなければならない。
- ・すでに私の町では山林をもう管理できない。経済的な価値がほとんどなくなった土地については、町有化し、町有林にしていこうという方向を打ち出している。寄付をしてもらったり、調査をして、そういう土地を買収してでも、きちんと管理できる状態にしないと、災害の問題にしても、公共事業の問題にしても、また山林の活用にしても本当に大きな弊害になっている。土地の問題をきちんと問題提起をしていかなければならないのではないか。

(委員)

- ・定住外国人の生活環境をどう持続させていくのか、大変重要な視点をいただいた。
- ・指標と施策とが結びついてない。なぜこの指標が出てきているのかが説明がされていない。もっと立体的な整理をしないといけないのではないか。
- ・対象毎に書いてあることもあって、普通のプランと同じような印象を受ける。

- もっと尖った表現で書けないのか。例えば、外国人をもっと呼んでくるのであれば「新居留地をつくる」など、少し工夫をしないとイケないのではないか。
- 学力は非常に重要だが、学力を全国平均以上にしたからといって全然魅力がない。このような分野に力を入れる、という言い方があるのではないかと思う。
 - 「私が輝くふるさとひょうご」を褒めていただいたが、私はぴんときてない。十分に議論して、「最終目標とどう繋がっているのか」という立体的な議論になっていかないとイケないと感じる。そのような意味で、今日のご指摘も十分踏まえながら、最終的なまとめをしたい。
 - その時々に応じてまた、ご相談をさせていただく。どうぞよろしくお願い申し上げます。